

## 2021 年度 3 回臨時総会 資料

開催日時:2021 年 10 月 18 日 21 時～

開催場所:オンライン(zoom を利用)

### 議題

1. ロング選手権のみの開催(秋インカレ)
2. 開催可否基準の撤廃(秋・春共通)
3. 選手権成立基準について(秋・春共通)
4. 単日開催時の種目について(春インカレ)

### 資料

第 3 回日本学連臨時総会配布資料 .....	2
1-1. 会計シミュレーション .....	27
1-2. 会計シミュレーションまとめ .....	29
1-3. 地図販売の会計シミュレーション .....	31
(回答書)インカレ開催に関するご相談に対するコメント .....	32

2021.10.18

01

# 第3回日本学連臨時総会 配布資料

'21 日本学生オリエンテーリング連盟 幹事長  
若月俊宏

## 02 目次

### 議題一覧

#### (議決事項)

- ①ロング選手権の部のみの開催（秋インカレ）
- ②開催可否基準の撤廃（秋・春共通）

#### (投票事項)

- ③選手権成立基準について（秋・春共通）
- ④単日開催時の種目について（春インカレ）

### 資料フォルダ

[こちら](#)

# 採決スケジュール

## 議決事項（議題①②）

- \_\_本総会終了後、YouTubeにてレコーディングの公開・質問受付
- \_\_GoogleFormにて投票受付、2021年10月20日（水）~~〆~~切

## 投票事項（議題③④）

- \_\_本総会終了後、YouTubeにてレコーディングの公開・質問受付
- \_\_GoogleFormにて投票受付、2021年10月25日（月）~~〆~~切



04

# ロング選手権の部のみの開催

議決事項／秋インカレ

05 秋インカレに関して

## ロング選手権の部のみの開催

(議題内容)

今後の感染状況によっては涉外が難航し、会場利用等で制限を受ける可能性が考えられる。  
そういった場合でも、**ロング選手権の部のみの開催**であれば実現可能性が残されるとのこと（山川氏）。  
ただしこの場合、参加費の大幅減収により秋インカレ単体で**最大で200万円の赤字**を計上することになる。

(幹事会での議論)

幹事会ではどのような形態であれ**開催を目指す方針で一致**  
一方で会計面での不安が大きく、今年度およびこの先**数か年分の決算シミュレーションを実施**。  
後述の資料の通り、**最大で200万円の赤字も問題ないと判断した**。

(総会での採決)

今後発生しうる**最大200万円の支出**について、総会での承認を得たい。

会計運用細則第11条 支出の承認

06

# 開催可否判断基準の撤廃

議決事項／秋・春インカレ



07 秋・春インカレに関して

## 開催可否判断基準の撤廃

(議題内容)

昨年度の開催可否基準を引き継ぎ「**選手権の部出場者3/4以上の参加**」を基準として設定していた。

「3/4」という数字は昨年度幹事会にて「**会計面**」と「**選手権の質**」の2点から設定された基準であった。ただ「**会計面**」さえクリアできれば「**選手権の質**」に関する基準は開催可否判断と結びつける必要はない。その後、筑波大学より提出された意見書および春インカレ実行委員会さんからのご提案を受け、幹事会では議題①と連携して会計状況を精査、基準の撤廃を検討してきた。

(幹事会での議論)

後述するスポーツ庁補償事業への申請などにより、**昨年度と比較しリスク軽減の見通しが立った。**

また、賛助会員募集の強化や寄付金付き限定グッズの販売など、**収入増を目指す取り組み**をスタート。

**会計面からの開催可否基準の設定は撤廃できると判断した。**

(総会での採決)

基準撤廃に伴い発生しうる赤字分を学連会計から補填することについて、総会での承認を得たい。

会計運用細則第11条 支出の承認



07

# 会計状況の整理

議題①・②

## 06 議題①②

# 会計状況の整理

(現在の口座残高)

約950万円 (+ 緊急時用資金約1700万円)

(2020年度決算)

加盟費の大幅減収、インカレの赤字補填により **およそ400万円の赤字決算**

(2021~2023年度決算シミュレーション) 参考資料[1](#), [2](#), [3](#)

2020年度加盟員の大幅減少の影響が少なくとも3年は続く。

インカレでの収支を0として計上した場合、**3年合計で約160万円の赤字決算が予想**される。

⇒これらの現状・シミュレーションから**最大200万円の支出も許容できると判断**した。

10

# 赤字負担軽減・収入増加への取り組み

議題①・②



## 11 議題①②

# 赤字負担軽減・収入増加への取り組み

([スポーツ庁補償事業](#)への申請)

緊急事態宣言の発令など**政府からの要請により中止**を余儀なくされた場合、**赤字分を補償**していただく事業に申請。実際に中止となった場合、受理される見込み。

直前中止による**最大損失を回避するための損切り判断を1ヶ月前の時点で不要**となった。

⇒昨年度と異なり、**開催可否判断基準の撤廃が可能であると判断**した。

(賛助会員募集強化・寄付金付きグッズの販売)

学連外部へのヒアリング（後述）により、寄付金などの募集について

OB・OGの皆様より**肯定的な意見**をいただいた。

(映像配信事業の費用負担軽減)

UNIVASとの**連携**により機材・技術の提供支援を受け、

[スポーツ庁のポストコロナに向けた事業支援](#)とあわせて**学連実費負担を従来のおよそ1/3程度まで軽減**。



12

# 外部へのヒアリング

議題①・②

## 11 議題①②

# 外部へのヒアリング

(JOAアスリート委員会様) [参考資料](#)より一部抜粋

\_\_卒業生の多くは、学生時代にインカレを楽しんできており、後輩にもぜひ素晴らしいインカレを体験してほしいと願っているはず。金銭的理由でインカレ中止の判断がなされることは望むことではないと思います。ですので、寄付を募れば相当数の人が協力してくれると思います。またこういう状況でありますし、過去から積み上げた財源を使うことは（将来のオリエンテリング界にとってもプラスになると）貴連盟の中で合意形成が成されればOKだと思います。

\_\_貴連盟内で具体的にどういった議論がされているかわからないですが、こういう時だからこそ学生オリエンテリング界を繋いでいくために、積み上げてきた財源を使うことは有意義だと思います。寄付については、インカレを特別なものと思っているのは卒業生も同じだと思いますし、協力してくれる人は多いのではないのでしょうか。そもそもが狭いオリエンテリング界において学生の占めるパイは非常に大きいわけで、インカレや学生オリエンテリング界の衰退は業界全体への現在から将来に影響があります。インカレのための寄付を募ることを否定、批判する向きは少ないと思います。

# 採決スケジュール

以上、議題①②については以下の流れで議決・承認をされたい。

- 本総会終了後、YouTubeにてレコーディングの公開・質問受付
- GoogleFormにて投票受付、**2021年10月20日（水）** 〆切



16

# 選手権成立基準について

投票事項／秋・春インカレ



16 秋・春インカレに関して

## 選手権成立基準について

(議題内容)

「会計面」と「選手権の質」の2点から設定していた「選手権の部出場者3/4以上の参加」について会計面での課題はクリアできると判断できた。ここからは「選手権の質」という点に絞って、**選手権の部の成立について基準を設けるのか否かも含めて議論**をしていく必要がある。なお、大会そのものの開催可否判断とは切り離れた基準であることを明記しておく。

(幹事会での議論)

成立・不成立の判断基準として、以下の3つの選択肢が挙げられた。

- ・ **選手権の部参加者の割合 (3/4,2/3など) で決定**
- ・ **事前 (1週間前程度) の総会決議により決定**
- ・ **設けない**

(総会での投票)

これら3つの選択肢のうちどれが相応しいか、割合で決定する場合はその数値設定をどうするか、**投票により方針を決定**したい。

17

# 各選択肢の説明

選手権成立基準について

## 18 選手権成立基準について

# 各選択肢の説明

(選手権の部参加者の割合で決定)

**従来基準を引き継ぐ形。**

今年の世界選手権では開催基準として「division1の国のうち7カ国が参加できれば開催」となっており、これに近い形となる。**数値としては3/4,2/3あたりが妥当か。**

(事前の総会決議により決定)

過去、インカレ直前でトレインの変更を余儀なくされたケースで公平性の観点で**大会前日に総会を開催し決議を取った、とのこと。**

(設定しない)

開催さえされれば選手権として認めるという選択。

「競技の質」という点は、**地図・コース・運営の品質に因る部分が大きく出場者数によらないという考え。**



19

# 各所へのヒアリング

議題③



## 20 議題③

# 各所へのヒアリング

(JOAアスリート委員会様) [参考資料](#)より一部抜粋

\_\_このような状況ですし、100%の大学が参加することは難しいかもしれません。（昨今ではオリンピック、高校野球をはじめとする他スポーツ大会においても、コロナの影響で100%の個人、団体が参加できないケースも多いと思います。）**なるべく選手権として開催できれば良い**とは思いますが、（数字を出さずとしたら）**感覚的には選手権出場者の3/4か2/3以上という数字が妥当**ではないでしょうか。

\_\_貴連盟は学生自治を続けて35年以上継続してきていると認識しています。日本の学生日本一を決められるのは、日本で貴連盟という組織のみです。（全日本チャンピオンを決められるのは日本ではJOAのみであるのと同じ意味です。）**ですので、貴連盟の加盟員が合意する内容であれば、どのような基準であっても問題ない**と思います。何をもちて合意とするかは、既に基準があるようでしたらそれに従って頂き、そのような基準がない場合は、**全会一致が理想的ですが難しければ加盟校の半数以上は賛成が必須**だと思います。貴連盟の幹事の皆さまがこのように先頭で悩み、色々な方からの意見を集め、プロセスを踏もうとしている目的（＝インカレを続けたいという思い）を大切にして、進めていってほしいです。

## 21 議題③

# 各所へのヒアリング

(日本学連技術委員会様)

\_\_ 「**競技性を担保できる**」という点は、**地図・コース・運営の品質に因る部分が大きく出場者数によらない**。選手権者を決めるに相応しい選手が参加しているかという点では、

- ・ **一定以上のお出場者数があるのが望ましい**
- ・ **全体のお出場者数よりは上位者がどの程度参加しているのかという基準もいいのではないかと**以上です。

\_\_ 補足として、上位者としてるのは、インカレは選手権者を決定する大会なので、そこに関わってくる選手の参加が重要ということです。**今年の世界選手権の開催基準が、division1の国のうち7カ国が参加できれば開催**となっていて、そのようなイメージです。

\_\_ でも一方で、競技性を決めるのは地図やコース、運営面によるので、**出場者数によって開催の可否を決める必要はないとの意見**もありました。コロナウイルス関係なく有力選手が参加できないこともある訳で、その中で優勝した選手も選手権者となるので、**上位選手や全体のお出場者数が少ないことを理由に中止とする必要は必ずしもないとも**いえます。

## 22 議題③

# 各所へのヒアリング

(春インカレ実行委委員会様)

\_\_ **選手権を成立させるための必要人数は規則に定められていない。** 基準を緩和するとしても根拠となる数字が無い。春インカレに関して言えば、3年連続中止となると大きな機会損失となり、また選手権者も途絶えてしまう。

\_\_ **「競技の質」という点は、地図・コース・運営の品質によるものであり、参加者数に左右されるものではない**と考える。

\_\_ 不成立のケースとしては、基準を設けないにおいて、**現行の制度に基づき「調査依頼→提訴」といったフローが適切なのではないか。**



23

# 単日開催時の種目について

投票事項／春インカレ



## 24 春インカレに関して

# 単日開催時の種目について

### (議題内容)

春インカレの開催判断フローによっては**単日開催の可能性**もある。

※議題②が承認された場合は開催地からの宿泊自粛要請が出されるケースがこれに当たる

この場合**ミドル競技を行うのかリレー競技を行うのか**、方針を決定する必要がある。

なお、ICMRについては2019年度より2年連続で中止となっている。

### (幹事会での議論)

#### ・ミドル競技

3人の合計タイムで団体戦の選手権者を出すことも可  
枠振り計算への好影響

#### ・リレー競技

タイムの合計とは違う、独特の雰囲気がある  
秋の個人戦、春のリレーとなると収まりがいい  
秋春通じてリレー種目は2年連続できていない

### (総会での投票)

これら2つの選択肢のうちどれが相応しいか、**投票により方針を決定**したい。

# 採決スケジュール

以上、議題③④については以下の流れで投票をされたい。

- \_\_本総会終了後、YouTubeにてレコーディングの公開・質問受付
- \_\_GoogleFormにて投票受付、2021年10月25日（月）〆切

以上

インカレ収支	収入	支出	利益
2015	¥3,421,455	¥2,569,120	¥852,335
2016	2088960	¥1,500,000	¥588,960
2017	3,075,654	¥200,000	2,875,654
2018	488566	¥1,500,000	-¥1,011,434
2019	2,477,860	¥1,500,000	977,860

インカレ収支(実質)	収入	支出	利益
2015	2088960	2569120	-480160
2016	3075654	1500000	1575654
2017	488566	200000	288566
2018	2477860	1500000	977860
2019			



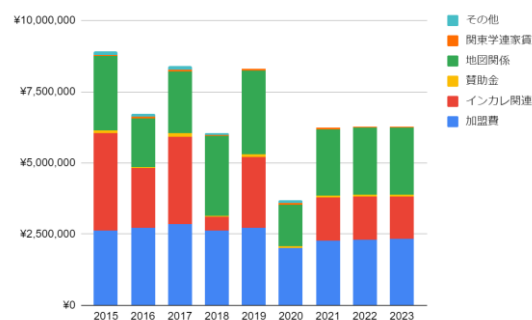
## 会計概況

- 日本学連の収入のほとんどを「加盟費」「インカレ関連（前年度貸付金と利益の返金）」「地図関係」が占めている。そのうち一時的な変動要因が「インカレ関連」、長期的な変動要因が「加盟費」であり、「地図関係」はその中間に位置する。
- 日本学連の支出は主に「インカレ関連（貸付金）」「幹事会関係」「事務局維持費」「地図関係（地図作成費）」である。このうち、一時的な変動要因が貸付金の増額などによる「インカレ関連」および「地図関係」である。「事務局関係」は固定費である。「幹事会関係」は費用が抑えられている年もあり、削減可能と考えられる。

## 会計推移

### 収入

- コロナ禍による新歓の制限から、2020年度に学連登録1年目となる加盟員の数が大きく減少したため2020年度の加盟費が前年から大きく減少している。この影響による加盟費の減収は2020年度入学生が卒業する2023年度まで続くと考えられ、4年間で総

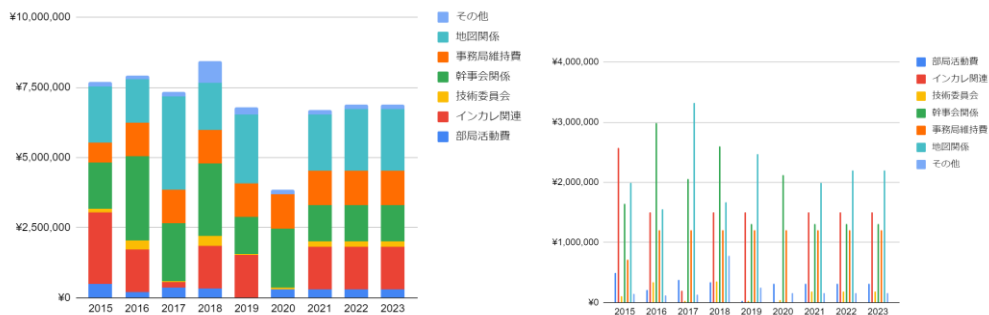


額約110万円の減収となると予想される。

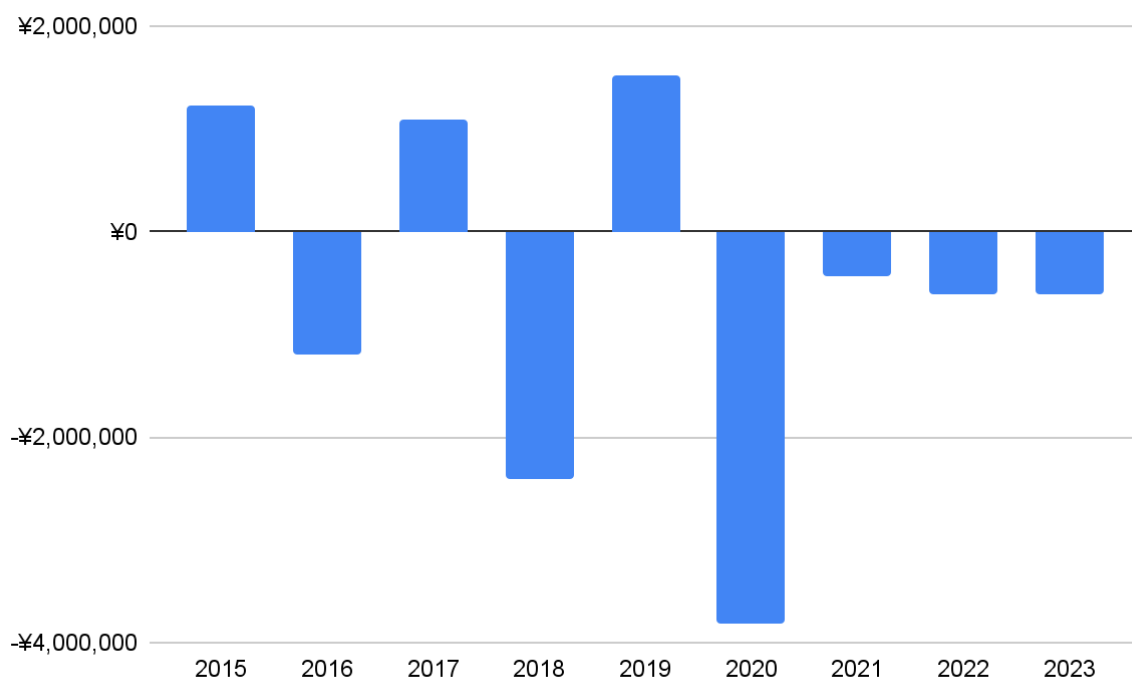


### 支出

- 支出の変動は、インカレ関連費と地図関係に依るところが大きい。

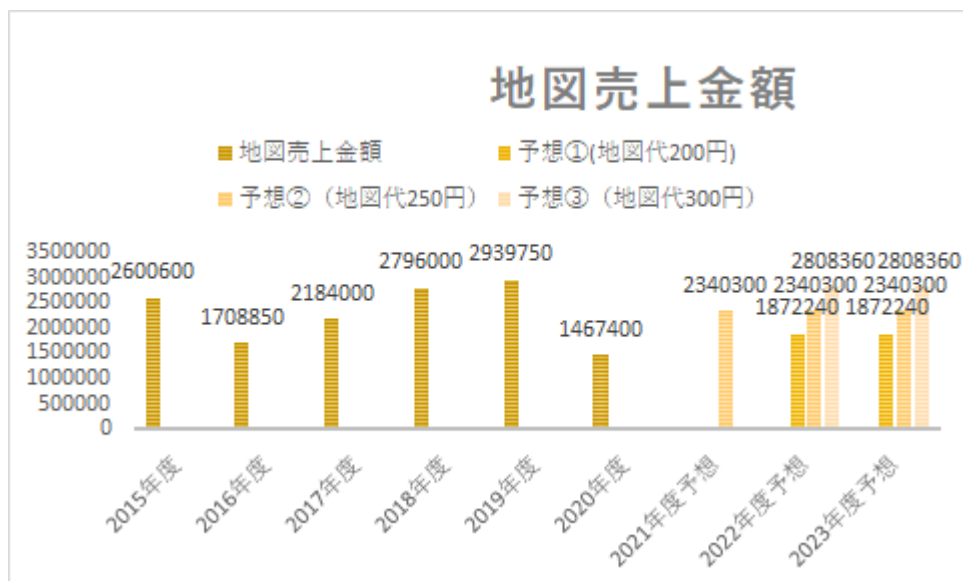


## 総計



- シミュレーションでは、**2020年度以降2023年度まで支出が収入を上回る結果**となった。なおこのシミュレーションにおいては、**インカレ関連については利益と損失が生じないことが原則である**と考え、**支出・収入ともに同額を計上**している。
- **2020年度から2023年度までの損失の総額は約160万円**である。
- なお、現在の日本学連の口座残高は振替口座を除くと約??万円であることから、2023年度の口座残高は??万円、2021年度インカレロングに200万円支出した場合は120万円になると予想される。

## 地図販売の会計シミュレーション



2021年度は地図著作権代を250円と50円アップして販売した結果、2021年度中間報告（4/1~9/12の東大練習会）にて1170150円の売上があった。2021年度決算は中間報告の額を2倍した2340300円として計算している。

そして、2022年度以降、地図著作権代を200円に戻した予想（予想①）と300円にさらに引き上げた予想（予想③）を組んでみた。予想①は $2340300 \times 0.8 (200/250) = 1872240$ , 予想③は $2340300 \times 1.2 (300/250)$  と計算した。



次に地図枚数である。こちらも2021年度の中間報告にて3921枚と報告があったので、それを倍にした7842枚を予想地図売上枚数とした。

日本学生オリエンテーリング連盟 御中

インカレ開催に関するご相談に対するコメント

2021年10月13日

日本オリエンテーリング協会 アスリート委員会

平素より大変お世話になっております。ご相談頂いた1～4.の項目について、アスリート委員会としてのコメントを記載します。本内容を参考にして頂き、日本オリエンテーリング協会（以下JOA）の学連担当理事とよく相談し、大学間で話し合い、貴連盟にて対応を決めて頂ければと存じます。

1. インカレ開催の会計（財政）について

参加者が少ない場合、収入が少なく大幅赤字となる懸念があります。会計を理由に大会の開催を中止とはしたくないため、下記の方法を考えております。ご意見がございましたらお願いします。（もちろん、できる限りのコストカットを行った上での方法です。）

① 過去から積み上げてきた日本学連会計（黒字留保分）で補填

② 卒業生の方々から寄付を募る 1-1. 日本学連の会計状況（参考）

- ・口座残高は1000万弱（これとは別に緊急時用の資金が1500万）ある

- ・コロナ禍前の2019年度までは毎年100万円強の黒字決算

- ・2020年度はインカレ関連の赤字（ロング400万、スプリント50万、インカレミドル150万）がかさみ、加盟費（2019年比-100万）・地図売り上げの減収（2019年比-150万）と重なり全体で約400万円の赤字（決算未確定のため概算値）

- ・2021年度は加盟費・地図売り上げは回復傾向にはあるもののコロナ前の水準と比較すると低い（2019年比-50万・-100万）

1-2. 寄付を募ることにに関して

「学生のみ参加者で構成される大会に対して、オリエンテーリング界全体から寄付金を募ることの妥当性」について、お聞きしたいです。

インカレは大学生の日本一を決める大会でもありますが、以下の2点のような役割も担っていると考えているため、インカレ開催のためにオリエンテーリング界全体からの寄付は妥当と考えています。しかし、それは本当にそうなのかどうかという事を社会人の方(大人の方々)にも判断していただき、寄付を募る際の後押しにできたらと思います。

① 大学生から競技を始める人がほとんどであることや競技人口の多くが大学生であることから、インカレは今後の日本オリエンテーリング界の競技力維持向上する上でも重要だと考えている。

② 大規模な大会を開くことでの運営ノウハウの継承という役割も担っていると考えている。



#### ■アスリート委員会コメント

・卒業生の多くは、学生時代にインカレを楽しんできており、後輩にもぜひ素晴らしいインカレを体験してほしいと願っているはずです。金銭的理由でインカレ中止の判断がなされることは望むことではないと思います。ですので、寄付を募れば相当数の人が協力してくれると思います。またこういう状況でありますし、過去から積み上げた財源を使うことは（将来のオリエンテリング界にとってもプラスになると）貴連盟の中で合意形成が成されればOKだと思います。

・貴連盟内で具体的にどういった議論がされているかわからないですが、こういう時だからこそ学生オリエンテリング界を繋いでいくために、積み上げてきた財源を使うことは有意義だと思います。寄付については、インカレを特別なものと思っているのは卒業生も同じだと思いますし、協力してくれる人は多いのではないのでしょうか。そもそもが狭いオリエンテリング界において学生の占めるパイは非常に大きいわけで、インカレや学生オリエンテリング界の衰退は業界全体への現在から将来に影響があります。インカレのための寄付を募ることを否定、批判する向きは少ないと思います。

・基本的に寄付を募ることに対してネガティブな意見はありません。会計状況をこのように都度説明しながら、寄付を募ると良いのではないかと思います。貴連盟の会計をどの程度崩すかについては、具体的な数値まで意見することは避けませんが、寄付を行う立場からすると、緊急時用の資金に手を付けない範囲で補填をした上で、+αとして寄付を募る形が、よりお互いにとって気持ちいいのではないかと思います。

#### 2. 学生選手権として認められる基準について

大会自体は開催することとして、その大会を選手権として認めるか否かの基準（参加人数）はどのように考えたら良いでしょうか。ご助言をお願いします。

#### ■アスリート委員会コメント

・このような状況ですし、100%の大学が参加することは難しいかもしれません。（昨今ではオリンピック、高校野球をはじめとする他スポーツ大会においても、コロナの影響で100%の個人、団体が参加できないケースも多いと思います。）なるべく選手権として開催できれば良いとは思いますが、（数字を出すとしたら）感覚的には選手権出場者の3/4か2/3以上という数字が妥当ではないでしょうか。

・貴連盟は学生自治を続けて35年以上継続してきていると認識しています。日本の学生日本一を決められるのは、日本で貴連盟という組織のみです。（全日本チャンピオンを決められるのは日本ではJOAのみであるのと同じ意味です。）ですので、貴連盟の加盟員が合意する内容であれば、どのような基準であっても問題ないと思います。何をもって合意とするかは、既に基準があるようでしたらそれに従って頂き、そのような基準がない場合は、全会一致が理想的ですが難しければ加盟校の半数以上は賛成が必須だと思います。

貴連盟の幹事の皆さまがこのように先頭で悩み、色々な方からの意見を集め、プロセスを踏もうとしている目的（＝インカレを続けたいという思い）を大切にして、進めていってほしいです。

### 3. インカレ開催の意志決定プロセスについて

上記1、2に対する意志決定プロセスとしては、過去のプロセスも参考にして下記の方法で考えております。ご意見がございましたらお願いします。

- ・定期総会または大会前日に、各大学の代表が各大学の意向を持ちより多数決にて決定

#### ■アスリート委員会コメント

- ・下級生を中心としたインカレを経験したことがない人たちに、インカレとはどのようなものを説明した上で、今回のインカレ開催に関する意見収集、意志決定が非常に重要であるものを伝えた上で、最終意思決定の場（総会）に臨むことが大切だと思います。
- ・前日ではなく、もう少し早いタイミングで決めることが望ましいと思います。前泊が必須になる大学も少なくないと思いますので、決定を前日まで引っ張るのは現実的ではないのでしょうか。現在はオンライン総会も十分に可能だと思いますし、必ずしも対面で総会を行う必要はないかと思います。選手に対して、「明日の大会は学生選手権かどうかわからない」という状況で大会前日を迎えるのは酷かだと思います。各大学に十分話し合いの期間を設けた上で、適切なタイミングを設定する形がよいのではないのでしょうか。

### 4. 大学側との参加許可に関する交渉について

インカレへの参加について大学側と交渉するために、どのような方法があるか経験豊富な卒業生（社会人）の方の意見を頂きたいです。

#### ■アスリート委員会コメント

社会的観点で他スポーツ、イベントと同等以上の対策を行っていること、学生にとってのインカレの価値を熱心に伝えることが大切だと思います。ご参考までに、具体例を以下に記載します。各大学で知恵を持ち寄って、良い方法を話し合ってみてください。

- ・貴連盟と JOA とで大学スポーツ協会（UNIVAS）に協力をお願いし、UNIVAS から各大学に働きかけて頂く。
- ・JOA から各大学に参加許可の依頼文書を出して頂く。
- ・PCR、抗原検査の陰性証明の取得を条件として参加できないか、各大学と交渉してみる。
- ・各大学に JOA 発行のコロナ感染対策ガイドライン（あるいはインカレ実行委員会からインカレにおける対策ガイドラインを作成頂いたもの）を見せて、ガバナンスが十分取られていることを伝える。

以上